

厚生労働省補助事業
障害者芸術文化活動普及支援事業



社会福祉法人みぬま福祉会

1、事業概要

アートセンター集を設置し、以下の業務に取り組んだ。

- ・相談支援
- ・芸術文化活動を支援する人材の育成
- ・ネットワーク作り
- ・参加型展示会とダンス公演の開催
- ・調査・発掘、評価・発信
- ・協力委員会の設置（協力委員:12名）

埼玉県福祉部、川口市福祉部、弁護士、埼玉県立近代美術館の学芸員を含む美術関係者5名、埼玉県内障害者団体の代表含む福祉関係者4名。

協力委員会は2回開催。展覧会、作品選考会や人材育成研修、シンポジウムへの登壇といった事業全般に関わっていただいた。また、相談支援に限らず本事業のアドバイザーとしてもご尽力いただいた。昨年度に続いて、委員を継続して頂いているので、障害者の芸術支援のため協働で事業を遂行する存在として活動意義も高まり、協力委員会での議論も多くみられ、事業発展への一助となった。

・都道府県との連携

作品の調査・発掘では埼玉県内の表現活動状況調査を協働で行い、データベース化し、共有して作品選考会を行なった。アート企画展における広報や図録制作の協力。ダンス公演も含め、事業全般で相談し連携して取り組んだ。

・障害者芸術・文化祭との連携

なら大会、埼玉県サテライト開催事業の広報協力。

・文化プログラム等について

埼玉県と連携し2つの展覧会と1つのダンス公演を行なった。



第一回協力委員会

相談支援

相談件数:550件（昨年度330件）

今年度の特長・傾向・変化

相談件数は昨年より増加しており、人から聞いて連絡したという相談者も増えていて、アートセンター集の存在が徐々に拡がっている実感はある。

●件数の多い相談

「見学したい」(123件)

・長年の当法人の経験を活かし、創作環境を積極的に公開して、相談に対応してきた。

「充実させたい」「作品を発表したい」(計131件)

・作家や家族から増加傾向にある相談。埼玉県表現活動状況調査や一般の公募展の情報提供し、出展につながったケースもあった。

●アートセンター集に寄せられる相談の連携体制

「アドバイザーとの連携」

・福祉的支援が必要なケースに関しては、相談支援専門員と連携した。

・作品売買に関する相談に関しては、弁護士や美術専門家と連携した。

「大学とのつながり」

・美術大学から構内で展覧会を開催したいという相談が2件。

・展覧会協力だけでなく、アトリエ見学や作家たちへのインタビューも実施。

・さらには、大学の講義にて作家が自分の表現に対する思いを語り、学生たちへ発信。

人材育成

障害者芸術支援シンポジウム「埼玉県の取り組みから考える」

開催日：2017年12月9日 会場：埼玉県立近代美術館講堂

埼玉県内の活動を中心に、当事業を多角的に考察しながら、美術、福祉、教育関係の専門家により、これまでの取り組み、そして今後の活動の広がりを共に考える。



参加者数
104人



開催日：2018年2月3日 会場：川口太陽の家

制作過程も含めて、様々な権利を守るためにどのような配慮が必要なのかを弁護士から学び、さらに専門家から、作品が魅力的に見えるグッズとは何か、また注意すべきことはなにか、事例とともに学ぶ。

権利保護や商品化に関するセミナー



参加者数
50人

人材育成

アトリエ見学ツアー



当法人の5か所のアトリエでの表現活動の様子を見学することで、スタッフの関わり方や環境づくりについて体験し支援について共に考える。

開催日：
2017年9月5日、11月7日、2018年2月5日

参加者数
計52人

インターンシップ研修



当法人のアトリエでの表現活動に一日参加することで、障害のある人と支援者の関わりを体験し支援力の向上を目指す。

開催日：2018年1月16日

参加者数
6人

グッズ研修会



講師にcon*tioの杉千種さん、山口里佳さんを迎え、埼玉県内の福祉施設によるネットワーク参加団体を中心に開催。障害のある人の表現のグッズ制作について学び、11月に開催するグッズ展に向けてレベルアップを図る。

開催日：
2017年5月22・25日、6月26・29日、
7月24・27日、8月24・28日、
9月21日

参加施設
17施設

ネットワーク

埼玉県障害者アートネットワークTAMAP士〇(タマッププラマイゼロ)

昨年度よりも3団体増加し、今年度も毎月の定例会を軸に活動を深めることができた。

参加施設

25
施設

※昨年度より3団体増加！

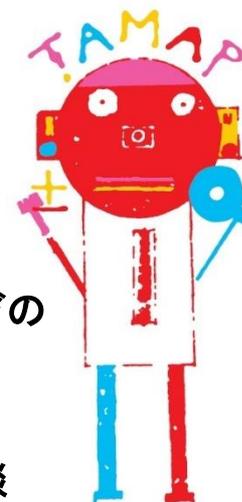


〈体制〉

- ・アートセンター集の事務局とメンバーが連携して活動。
- ・東西南北の支部長が地区の情報等を統括。
- ・適宜、協力委員や行政と連携。

〈主な活動〉

- ・月1回の定例会にて情報交換の場、展覧会やセミナーなどの企画を行う。
- ・事業計画に即した障害者の表現活動に関する、展覧会の企画・運営／研修の実施／情報交換、悩み相談



各支部に支部長を置き、支部の横のつながりも大切にしています。



定例会



アートディレクターによる学習会



展覧会の企画など

展覧会

「うふっ♥埼玉で こんなのみつけちゃった♪」

2017年8月22日(火)～9月2日(土)
多機能型事業所わっくす
喫茶ゆめいろ

来場者数
459人



通常営業するカフェでの展示のため、
初めての方にも作品を見てもらえる機会になった。



アーティストトーク
作家4名参加



「うふっ♥埼玉でこんなのみつけちゃった♪」 織り&グッズ展ツグズムズ10

11月1日(水)～11月12日(日)
工房集ギャラリー



参加施設のコラボ商品
も生まれました。

「グッズ研修会」の
集大成としての
展覧会。

来場者数
782人



ライブパフォーマンス 作家5名
スタンドグラスワークショップ 作家2名



展覧会

第8回埼玉県障害者アート企画展 「うふっ♡埼玉でこんなのみつけちゃった♪」

12月6日(水)～12月10日(日)
埼玉県立近代美術館 一般展示室1

来場者数
1,965人

来場者投票を行いました。
総投票数は1,839票！



出展作品の写真と解説を
収録した「作品集」を発行



オープニングセレモニー
作家10名が参加

「うふっ♡埼玉で またまたこんなのみつけちゃった♪」

2018年2月7日(水)～2月12日(月・祝)
アートギャラリー呼友館(いも膳内)

来場者数
413人



アート企画展での来場者投票の結果、上位10名をはじめ
計37名の作品を展示



アーティストトーク
作家10名が参加



ダンスワークショップ



講師にベストプレイス主催の竹中幸子氏を迎え、ワークショップを4回開催。県内の福祉施設所属の有志によるタマップダンサーズ16名が、身体を動かすことの楽しみを共有しながら公演に向けて取り組んだ。



ダンス公演「あはっ★埼玉でこんなこともやっちゃった」

2017年12月10日(日) 埼玉県立近代美術館講堂

ワークショップの集大成を
公演で発表！

来場者数
125人



調査・発掘 評価・発信

表現活動状況調査の配布(7月～)

教えてください!!

～ 表現活動をしている障害がある方や、その作品の情報募集 ～

何のための調査・・・?

障害がある方の表現活動によって作られる作品の中には、高い芸術性・創造性を持つものがあります。そのような表現活動を発掘させることは、障害がある方の社会参加につながります。

その一環として、県内の障害がある方の表現活動状況の調査を行っています。

8月18日(金)までに届出いただいた作品は、御本人の同意を得たうえで、障害者アート企画展等の出展候補作品として取り扱います。

埼玉県のマスコット「コロン」

彩の国 埼玉県

表現活動って・・・?

絵画や造形、演劇やダンスなど、何らかの作品を創り出す芸術・文化活動のことを言います。

得意な表現しているのによくない作品、これで見たいか悩んでいる作品でも、ぜひその情報を教えてください。

そこに書くべき形が隠れているかもしれません。

この調査に関するお問い合わせ先

埼玉県福祉部障害者福祉推進課
社会参加推進・芸術文化担当

T E L : 048-830-3312
F A X : 048-830-4789
E - mail : a3310-03@pref.saitama.lg.jp
http://www.pref.saitama.lg.jp/a0604/hyougenchosa.html

※ 県ホームページのトップページから検索ワード「表現活動状況調査」で検索可能です。

第8回埼玉県障害者アート企画展(12月)



出展者
97名



埼玉県と協働で表現活動状況調査を実施。

作品選考会(9月)

TAMAP士メンバー32名、美術専門家4名、行政関係者や弁護士など、計47名で選考会を開催。作品への質問も飛び交い、施設職員からは制作の背景などが紹介され、作品の魅力や評価について語り合う場となった。



回答数
600件

データベース化
調査内容を
リストに集約し
県と共有

今後の展望

この埼玉の障害者芸術文化活動普及支援事業では、「福祉の現場から、障害のある人たちの表現の魅力を発信し、そのアートのパワーで、よりよい未来をつくっていこう！」といった思いを一つに、県や協力委員、TAMAP±〇メンバーをはじめ、作家や家族、さまざまな機関や専門家、地域の人たちなど、多くの人々が力を合わせて活動しています。

2018年度も、9回目を迎える「埼玉県障害者アート企画展」を軸に、みんなで知恵を出し合い、一つひとつ課題を解決しながら活動していきたいと考えています。

表現活動の意義、「埼玉方式の障害者アート支援」をどう発信するのか、その先の未来図、ビジョンをどう描くか——検討を重ね、活動を計画していきます。

埼玉に生まれる多様な表現と共に、みんなで社会に「問い」を発信し続けながら、自らも考え、また、より多くの人と表現から得る感動や驚き、学び、支援の喜びや活動の楽しさを共有していきたいと考えています。

